

国際学会「CHI2018」でのポスターセッション

総合政策学部3年 江口 壮哉

1. 活動日程・会場

CHI2018は2018年4月21日から同26日まで開催されていた。本学会の内、ポスターセッションにて研究発表を行った。学会の場所はカナダのモントリオール国際会議場にて行われた。

2. 活動の内容

CHIは、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)の学会である。HCIとはコンピュータと人間の相互作用においての人間工学的インタラクションを考えるものである。今回は、江口・脇本・高盛の三名による共同研究の発表を行いたいと考え、ポスターセッションに投稿したところ、これが受理され現地で発表を行うこととなった。

研究発表を行った「Growable Robot with 'Additive-Additive-Manufacturing」では、3Dプリンタを活用した、ロボットの成長の表現について提案し、セッションを行う中で研究のブラッシュアップを図った。3Dプリンタを用いて既存の部品に新たなオブジェクトを追加する手法をAdditive-Additive-Manufacturing(AAM)と呼び、それらの手間を減らすべく3Dスキャン装置と3Dプリンタの一体化を行い、加えてAAMを行うための3D曲面スライサを独自で開発した。

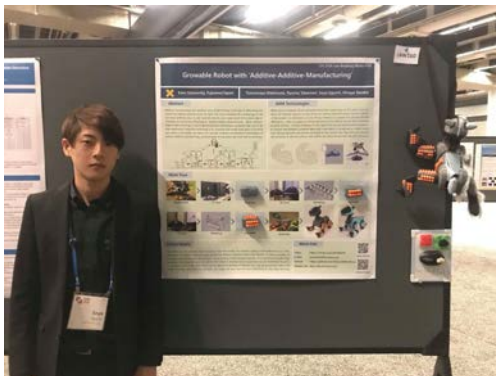
これにより、既存のロボットに3Dプリントをすることが可能となり、クラウドに繋がれた性格が成長するロボットの外見的成長を表現することが可能になった。

この研究は、クラウドなどでソフトウェア的成長をするようになったパーソナルロボットの現状の中で、着せ替えを超える外面的、ハードウェア的成長を提案する新規性を持った研究である。

3. 研究発表の成果

セッションでは40分が2回、計80分の時間が設けられていた。そこでは、同学会の参加者との討論、コミュニケーションを行うことができた。今回制作した、aiboを持ち寄ったため、具体的なアイデアに関しての討論を行うことができた。結果として議論が白熱し、用意されていた40分の時間を大幅に超えての議論を行った。

写真左がポスターセッションの会場で、このような形式で実際のaiboとともに発表をした。右の写真は会場の様子で、大変多くの参加者で賑わっていた。



4. 今後の課題

今回発表した研究について、ロボットの成長というアピールポイントについての議論が多く、人が成長を感じる要素についてディスカッションなどを行った。その際に人の介入がないところでの変化が必要と感じた。これについて今後、成長のフローなどについて改めて考える必要があると感じた。

また、今回が自身の初めての国際学会だったが、英語で十分な議論を行う上で、自分の語彙などの壁を感じた。次の国際学会への参加を視野に入れて自分の研究分野の専門用語などについて学びを深めたい。

5. 謝辞

研究発表に際し，湘南藤沢学会より渡航費，学会費及び宿泊費の支援を頂いた。ここに深く感謝の意を示したい。